

男女共同参画推進連携会議「経済分野における女性の活躍促進」チーム第1回会合議事概要

1. 日 時 : 平成30年2月28日(水) 16:00～18:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎8号館6階623会議室
3. 議 事 :
 - (1) コーディネーターの互選
 - (2) 議員自己紹介
 - (3) 今後のチーム活動について
 - (4) 「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言について
 - (5) WEPsについて
 - ・WEPsの概要について(UN Women日本事務所長 石川 雅恵氏)
 - ・WEPs問診票について
 - ・WEPsリーフレットの改訂について
 - (6) 女性起業家支援策について
 - ・都道府県の女性向け起業支援策一覧の更新について
 - ・経済産業省における取組について
(経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室長 小田 文子氏)
 - (7) 意見交換
4. 出席者 :
 - (有識者議員)
明石議員、秋好議員、和泉議員、犬塚議員、大崎議員、上林議員、松永議員
 - (団体推薦議員)
矢野議員、篠塚議員、潮議員、三輪議員、谷津議員、伊藤議員、高松議員、
杉野氏(久保田議員代理)、藤沢議員、金野議員、澤田議員、宮木議員、名取議員、
佐藤議員、清塚議員
 - (外部有識者・関係府省等)
 - ・UN Women日本事務所長 石川 雅恵氏
 - ・経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室長 小田 文子氏
 - (事務局)
武川 内閣府男女共同参画局長、岡本 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、
符川 内閣府男女共同参画局男女共同参画推進官、大川内 内閣府男女共同参画局政策企画
調査官

5. 議事概要

○冒頭、武川局長より挨拶があった。

○議事 1 について、チームコーディネーターの互選が行われ、明石伸子議員がコーディネーターに選出された。続いて、明石コーディネーターが松永幸子議員を副コーディネーターに指名され、両者から挨拶があった。

○議事 2 について、各議員より今後の抱負や各所属団体の取組等を含め自己紹介があった。

○議題 3 について、資料 2 に基づき、事務局より、今後概ね 2 年間のチームにおける活動内容案の説明が行われ、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・多くの中小企業の事業者は世代交代する段階を迎えており、中小企業庁でも事業承継について支援を進めている。女性が先代から事業承継する場合も増えているが、女性ということで苦労している例も多い。案に記載されている、「女性の事業継続」というのは、事業継承も含むか。
→前期の「女性の起業支援」チームにおいては、女性が起業した後、事業を継続することを対象としていたが、本チームにおいては、そのような視点も検討したい。

○議題 4 について、資料 3 - 1 ~ 3 - 5 に基づき、事務局より、「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言について説明が行われ、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・賛同者による女性の活躍推進報告書については、毎年作成しているのか。賛同しただけで終わりにならないような取組にしてほしい。
→毎年作成しており、これまでの報告書についても内閣府男女共同参画局HPに掲載している。
- ・賛同は、組織としてではなく、個人として行うものであるか。
→そのとおりである。

○議題 5 について、資料 4 に基づき、UN Women 日本事務所長石川氏より、UN Women における国際的な女性のエンパワーメント促進に関する取組や WEPs の概要、WEPs ジェンダーギャップ分析ツール等について発表があった。また、資料 5 - 1、5 - 2 に基づき、事務局より、WEPs 問診票及び WEPs リーフレットについての説明とともに、WEPs リーフレットについては本チームで改訂を行う予定である旨の説明が行われた。さらに、発表等を踏まえ、質疑応答・意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・WEPs について、日本弁護士連合会のような強制加入団体も署名可能であるか。
→可能である。

○議題 6 について、事務局より、資料 6 に基づき女性応援ポータルサイトに掲載の女性起業支援策情報の説明が行われ、資料 7 に基づき、都道府県別起業支援策一覧について、本チームで更新を行う予定である旨の説明が行われた。また、資料 8 に基づき、経済産業省経済産業政策局経済社会政策室長 小田氏より、女性起業家等支援ネットワーク構築事業について発

表があった。さらに、発表等を踏まえ、質疑応答・意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・ジェンダー視点のない起業支援はフェーズ 0・1 の支援が不足していることがわかっており、説明のあったネットワーク構築事業は素晴らしい取組であると思う。ジェンダー分析調査をした際、女性が起業に成功する条件として、自己肯定感が高いこと、自分で決めて行動できること、社会資源に積極的につながる知識と行動力があること、家庭内でケア労働を一人で担っていないことなどが挙げられることがわかった。このような状況に十分に対応するためには、地域の男女共同参画センターが地域のジェンダー規範や性別役割分担等を熟知しており、ノウハウもあるため、連携するとよいと思う。
→起業を希望する人の意見を聞いた時、起業したいが家族の理解を得られない、子供がいるため起業支援セミナー等に行けないなど、潜在的な課題は多い。セミナー等を開催するに当たっては、そういった点も留意したい。また、男女共同参画センターとの連携も引き続き進めていきたい。
 - ・女性起業家等支援ネットワークの単位は広域的であるが、女性の起業支援には地域密着型が重要である。最低でも都道府県レベル、できればそれより小さいレベルでの支援体制が必要であると思うが、そのような取組の方向性はどうなっているか。
→この事業では、広域単位での女性起業支援ネットワークの自立化に加え、自治体単位での自立化も目指して取り組んでいる。今後、各地域の特徴と課題も踏まえ自立化に向け検討したい。
 - ・日本の産業を生み出すような、IPOをしていくような、ベンチャー企業の女性起業家を増やしたい。しかし、IPOをしようと思う機会がなかなかないのが現状である。IPOした起業家や実際に資金調達した起業家など、いわゆるメンターとなるような人たちとどれだけ接点があるかで、女性起業家でもIPOする人が増えると思う。ただ、ベンチャーキャピタルがICC等の起業家向けのコミュニティを運営しており、普通の女性会社員等でも、フラットにメンターと話せるといった取組も行われている。メンターを置くと起業家も増えるのではないか。
→女性起業家等支援ネットワーク構築事業では、現状はフェーズ 0・1 の支援に力を入れて取り組んでいる。本事業でもイベント等を通じて様々な層のロールモデルを紹介していきたい。
- 最後に明石コーディネーターより、今後のスケジュールについて、第 2 回は事務局より改めて連絡すること、また議題としては「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者や WEPs 署名企業代表者の取組事例のヒアリング、WEPs リーフレットの改訂等を行う予定である旨の連絡を行った。

以 上